

林野庁 近畿中国森林管理局
箕面森林環境保全ふれあいセンター

平成 22 年度 活動報告(年報)



目 次

はじめに	
自然再生への取組	1
森林環境教育への支援	22
森林ボランティア活動への支援	26
グループ対抗里山テジカメ選手権	27
その他	29



2011・国際森林年

はじめに

「森林環境保全ふれあいセンター」は林野庁の出先機関で、全国に11箇所設置されており、国有林野を活用し、NPO等が行う自然再生活動、生物の多様性の保全等や教職員その他の者が行う森林環境教育等に対して、技術的指導その他の支援等の取組を行っています。

箕面森林環境保全ふれあいセンターは、平成16年4月に設置され7年が経過し、根幹となる継続した活動のほか、新たな活動にも積極的に取り組んでいます。

今年度の新たな活動としては、これまで開発してきた「森林環境教育プログラム」や「森林環境教育推奨事例集」を活用するため、小学校の学習指導要領に示された指導内容に対応し、森林環境教育の指導内容を明確にすることが必要と考え、教育関係者等の専門家からなる製作検討委員会を設置し、小学校の教員向けの「森林環境教育手引書」の作成に取り組みました。

また、継続した活動としては、

- ①箕面国有林のエキスポ'90みのお記念の森一帯（大阪府箕面市）において、森林環境教育のフィールドとして活用しつつ、多様性豊かな里山の再生と生物多様性の向上に資するため、平成20年5月に策定した「箕面体験学習の森」整備方針に基づき整備を行うとともに、その一環として、小学生・幼稚園児・ボランティアなどの住民参加によりクヌギ・コナラをドングリから育てる「オオクワガタの棲める森づくり」の取組、
- ②大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針を作成するため、三重県と奈良県の県境に位置する大台ヶ原一帯において、関係行政機関・NPO等と連携し、ニホンジカの生息状況及び森林被害の現況把握調査等の実施、
- ③教育関係機関・森林ボランティア団体等と連携し、小・中学校の教員並びに教員を目指す大学生を対象とした森林環境教育セミナーの開催、
- ④森林ボランティアリーダー養成スクールフォローアップ事業として、養成スクール修了生へのアンケート調査結果やこれまでの養成スクールの実施内容の検証等を行い、森林ボランティア活動指導の指針となるような指導集を作成するため、各ボランティア団体の指導内容の把握、
- ⑤里山の再生・整備活動や森林環境教育に主眼を置き、「身近な森林の再発見！！」をテーマとして、学校・森林ボランティア・企業・家族等のグループを対象とした「グループ対抗里山デジカメ選手権」の開催等に取り組みました。

平成22年度もほぼ計画どおり活動を行うことができました。これも関係者の皆様のご理解とご協力によるものであり、心から厚く御礼申し上げます。

平成23年3月

箕面森林環境保全ふれあいセンター所長 清水好美

自然再生への取組

「箕面体験学習の森」整備事業(Ⅱ)

趣旨

大阪府の北部に近接する箕面国有林を含む北摂地域は、かつて台場クヌギを仕立てて菊炭を生産するなど、活発な里山の利用が行われていましたが、現在では、スギ、ヒノキの人工林が大半を占めている状況にあります。

当ふれあいセンターでは、平成18年度まで里山再生推進モデル事業を実施し、具体的な里山再生メニューの決定及び里山整備、伐採木の利用、里山再生ガイドラインの作成等に取り組んできました。

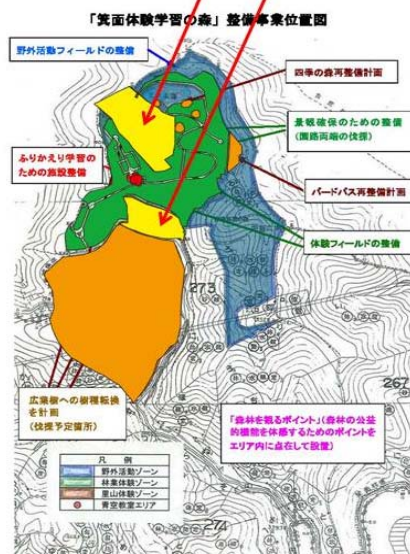
これらの取組結果も踏まえ、里山モデル林を含む地域において、積極的な広葉樹の育成や伐採等による木材利用及び菊炭づくり体験など、森林環境教育のフィールドとして活用しつつ、多様性豊かな里山の再生と生物多様性の向上を目指し、平成20年5月に策定した「箕面体験学習の森」整備方針に基づく里山整備に着手しました。特に、展望台周辺のヒノキ、スギを伐採し、クヌギ、コナラなどの落葉広葉樹に転換する「オオクワガタの棲める森づくり」(別紙)プロジェクトを展開してきたところです。

今年度からは「箕面体験学習の森」整備事業(Ⅱ)として、樹種、保育等の施業を実施し、当該事業の目的達成に向けて取り組んでいます。

当該事業の実施に当たっては、京都大阪森林管理事務所やボランティア団体と連携・協力を密にするとともに、当該事業に関連した森林環境教育プログラムの普及啓発などの取組との有機的な連携を図っています。

「箕面体験学習の森」

「オオクワガタの棲める森づくり」



「箕面体験学習の森」及び「オオクワガタの棲める森づくり」位置図

事業内容

1 場所

大阪府箕面市 箕面国有林（エキスポ'90みのお記念の森）

2 内容

(1) 「箕面体験学習の森」整備事業()検討委員会等の開催

(2) 「箕面体験学習の森」中心部において「オオクワガタの棲める森づくり」の実施

「箕面体験学習の森」整備事業()検討委員会等

委員会・部会委員（五十音順、敬称略 は座長及び部会長）

氏名	所属・職名	委員会	整備部会	利活用等 検討部会
奥 敬一	(独)森林総合研究所関西支所 主任研究員			
鎌谷計三	清水谷をまもる会 代表			
木山雅博	明治の森箕面国定公園ビジターセンター 所長			
小橋達夫	大阪府北部農と緑の総合事務所 緑地整備課長			
服部 保	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授			
松山尚文	箕面市教育センター 所長			
山下宏文	京都教育大学 教授			
山本 博	NPO法人 日本森林ボランティア協会 事務局長			

「箕面体験学習の森」整備事業()全体計画について検討 (第1回整備部会)

4月12日(月)に明治の森箕面国定公園ビジターセンター（以下「箕面ビジターセンター」という。）の研修室をお借りして、第1回整備部会を開催しました。

「箕面体験学習の森」整備事業は平成21年度までの3年間の事業であったことから、今年度から「箕面体験学習の森」整備事業()としてスタートしたところであり、整備部会では平成24年度までの3年間の全体計画(案)について説明し、委員の方々に検討していただきました。

委員からは、今年度から「オオクワガタの棲める森づくり」として取り組む広葉樹の植樹について、「苗木の本数を確認しておくこと。安全面を考え種を採取しておいてはどうか」、「兵庫県で取り組む尼崎 21世紀の森を見学してはどうか」、また、昆虫ベッドについて、「7～8月の適期にカブトムシ等の雌を入れること」などの意見がありました。



「箕面体験学習の森」整備事業()全体計画及び 植樹祭の開催について検討 (第1回検討委員会)

4月12日(月)に箕面ビジターセンターの研修室で、整備部会に引き続き第1回「箕面体験学習の森」整備事業()検討委員会(以下「検討委員会」という。)を開催しました。

検討委員会では服部座長に議事を進めていただき、第1回整備部会からの報告、「箕面体験学習の森」整備事業()全体計画(案)、「オオクワガタの棲める森づくり」植樹祭(5月9日開催予定)について報告・説明し、委員の方々に検討していただきました。



委員からは、全体計画について了承を得ましたが、「各ゾーンごとの整備計画について、今後取り組んでいく中で問題があれば報告し、対策を検討すること」、「整備計画と整合性を持った事業となるよう取り組むとともに、事業の趣旨を市民に広くPRすること」、「整備計画に沿って計画的に実行するとともに、生物多様性に配慮した植栽計画とすること」などの意見がありました。

植栽樹種の追加及び野生動物の被害等について検討 (第2回検討委員会)



7月21日(水)に箕面ビジターセンターの研修室で、第2回検討委員会を開催しました。

検討委員会では、植栽樹種の追加(アベマキ)、生物多様性に配慮した植栽計画、野生動物の被害とその対策等について説明し、委員の方々に検討していただきました。

委員からは、「植栽樹種の状況及び発生稚樹を調査し、その都度報告すること」、「野生動物の被害対策については、関係機関と連携を密にして対応すること」、「今後の植栽は法令を遵守し、計画的に行うこと」、「各

整備の実施に当たっては、ボランティア団体の協力も得ること」などの意見がありました。

また、次回の検討委員会は、今後の取組の参考となるよう生物多様性に配慮した森づくりに取り組む先進地を視察し、委員間の情報共有に努めることとしました。

生物多様性に配慮した森づくりの視察及び 「オオクワガタの棲める森づくり」の今後の展開について確認 (第3回検討委員会)

9月29日(水)に兵庫県尼崎市にある「尼崎21世紀の森」で、第3回検討委員会を開催しました。

「尼崎21世紀の森」は、人々の暮らしにゆとりと潤いを、水と緑豊かな自然環境の創出による環境共生型のまちづくりを目指して、兵庫県が事業を展開しています。

初めに「尼崎21世紀の森」の担当者の方から事業の説明を受け、現地を視察しました。事業の場所が都市と里山の違ひはありますが、生物多様性に配慮して事業を展開していることから、共通項があり大変参考になりました。

現地視察に続き、同所会議室で検討委員会を開催し、「オオクワガタの棲める森づくり」の植栽状況と今後の植栽計画、植樹箇所の稚樹の発生とその取扱い、植樹箇所の残存立木の取扱い、昆虫ベッドへのカブトムシ幼虫の放虫について説明し、委員の方々に検討していただきました。

委員からは、「期間内に植栽を完了させるためには、ボランティア・市民の協力を得ること。また、その都度対応を検討し報告すること」、「稚樹の取扱いについては、植栽完了後検討すること、また、発生状況を経過観察しておくこと」、「歩道沿いの残存立木について、支障があれば伐採も止むを得ない」などの意見があり、これらの意見は検討し、今後の取組へのフィードバックを目指すこととしました。



現地視察の様子



第3回検討委員会

オオクワガタの棲める森づくり

目的

当ふれあいセンターでは、当該地域の国有林において積極的な広葉樹の育成や伐採等による木材利用及び菊炭づくり体験等、子どもたちを対象とした森林環境教育のフィールドとして活用しつつ、多様性豊かな里山の再生と生物多様性の向上に資するため、「箕面体験学習の森」の整備を開始しました。

整備は主に、「箕面体験学習の森」(エキスポ'90みのお記念の森)の中心にある展望台の周辺において、かつての森を再生するため、ヒノキ、スギ林からクヌギ、コナラなどの落葉広葉樹林への転換を目指しています。

この取組は、住民参加型とし、小学生、ボランティア等により、苗木の育成、植栽、下刈等の一貫した取組を継続して行うこととしています。

特に、森林環境教育の一環として、箕面市内の小学生及び幼稚園児に苗木の育成から植栽を体験してもらい、「森林」が豊かな体験を提供する場であること、「森林」が正しい知識を得る場となること、「森林」が生活や日本人とのかかわりをつくりあげていく対象となることなど、「気づかせるきっかけづくり」となることを目指しています。

実施場所

大阪府箕面市 箕面国有林「箕面体験学習の森」(エキスポ'90みのお記念の森)

事業計画

1) 植栽予定樹種

クヌギを中心に、コナラ、エドヒガン、ヤマザクラ、カスミザクラ、アカシデ、イヌシデ、リョウブ、エゴノキ、イロハカエデ、クマノミズキ、ケヤキ、エノキ、ムクノキ、アベマキ等の落葉広葉樹

2) 種子

ア 種子の確保

コナラなどの落葉広葉樹については、箕面国有林内、若しくは箕面国有林が所在する流域内で集めます。ただし、クヌギは、学術的に地域個体差が無いことから、上記以外で集めたものも可とします。

イ 小学校等の参加

箕面市内の小学校、幼稚園及びボランティア団体に趣旨の賛同を得て、クヌギ、コナラ等の種子を集めます。

3) 育苗

クヌギ、コナラについては、箕面市内の小学校、幼稚園及びボランティア団体等により行うとともに、その他の樹種は、地元住民及びボランティア団体等で育苗を行います。

4) 植樹

箕面市内の小学校、幼稚園、ボランティア団体及び地元住民参加により、クヌギ、コナラ等の植樹を行います。

5) 保育

伐採後の地拵、防鹿柵の設置については、NPO法人日本森林ボランティア協会等により行います。

下刈や除伐、間伐についてはNPO法人日本森林ボランティア協会により実施するほか、趣旨に賛同する学校及び地元住民参加により実施します。

6) 台場クヌギ仕立て

クヌギ、コナラは植栽後15～20年を経過した時点で伐採し、萌芽を促すことにします。伐採した材は、炭焼きやシイタケ原木等に利用します。以降8年間隔で萌芽更新により循環するように伐採を繰り返します。

参加団体等

箕面市内の小学校、幼稚園

箕面市内のボランティア団体

箕面市内の住民

NPO法人日本森林ボランティア協会

大阪府

近畿中国森林管理局

京都大阪森林管理事務所

箕面森林環境保全ふれあいセンター

「オオクワガタの棲める森づくり」への参加状況

1. 苗木育成

1) 箕面市内の小学校

- ・箕面市立萱野北小学校 (H20: 1年生、2年生116名、H21: 4年生58名、 1、 2、 3)
- ・箕面市立豊川北小学校 (H20: 4年生、5年生の164名、H21: 4年生66名、 1、 2、 3)
- ・箕面市立箕面小学校 (H20: 児童、保護者36組、 2)
- ・箕面市立西南小学校 (H21: 4年生107名、 2、 3)

2) 箕面市内の幼稚園

- ・箕面市立とよかわみなみ幼稚園 (H20: 園児74名、 1、 2、 3)
- ・箕面市立とどろみ幼稚園 (H20: 園児20名、H21: 園児35名、保護者30名、 2、 3)
- ・箕面市立せいなん幼稚園 (H20: 園児33名、H21: 園児34名、 2、 3)
- ・箕面市立なか幼稚園 (H20: 園児50名、H21: 園児41名、 2、 3)
- ・箕面市立かやの幼稚園 (H20: 職員のみ、H21: 園児60名、 2、 3)
- ・箕面市立ひがし幼稚園 (H21: 園児45名、 2、 3)

3) 地域住民の参加状況 (箕面市ほか近隣の地域から参加)

- ・山とみどりの市民イベント「みどり生き生き みのお生き生き 体験フェア」
(H20: 80組、H21: 3組、H22: 15組、 2、 3)
- ・箕面市立西南図書館 (H21: 54組、 2、 3)
- ・グリーンフェスタ2009 (H21: 56組、 2、 3)
- ・箕面の森の音楽会 (H21: 12組、 2、 3)
- ・その他の団体 (NALC H20: 40組、H22: 30組、フォーラムみのおBGC H20: 18組、
みのお里山工房 H22: 30組、 3)

(注: 1はドングリ拾い、 2は植木鉢への埋め込み、 3は育成)

2. 植樹行事

1) 小学校、幼稚園による植樹状況

箕面市立豊川北小学校

- ・平成22年 3月23日(火) 6年生77名

箕面市立なか幼稚園

- ・平成22年 3月23日(火) 園児39名

箕面市立とどろみ幼稚園

- ・平成22年 3月23日(火) 園児12名
保護者等11名

箕面市立萱野北小学校

- ・平成22年10月29日(金) 3年生70名

箕面市立なか幼稚園

- ・平成23年 3月 4日(金) 園児49名

箕面市立とどろみ幼稚園

- ・平成23年 3月 4日(金) 園児48名

2) 大学による植樹状況

京都教育大学(森林環境教育セミナー)

- ・平成22年 5月29日(土) 1回生等44名

京都大学

- ・平成22年 9月17日(金) 大学院生15名

3) 地域住民による植樹状況

「オオクワガタの棲める森づくり」
植樹祭

- ・平成22年 5月 9日(日) 157名

4) ボランティア団体による植樹状況

「オオクワガタの棲める森づくり」
植樹祭

- ・平成22年 5月 9日(日) 80名(9団体)

NPO法人日本森林ボランティア協会
による森林整備活動

- ・平成22年 7月24日(土) 74名
- ・平成22年10月17日(土) 50名
- ・平成22年11月29日(月) 19名



小学校・幼稚園の植樹行事(3月23日)



「オオクワガタの棲める森づくり」植樹祭(5月9日)



萱野北小学校の植樹行事(10月29日)

具体的な取組状況

1) 平成23年度植樹に向けた地域住民への参加呼びかけ

「オオクワガタの棲める森づくり」への地域住民の参加を呼びかけるため、4月4日(日)に大阪府豊中市で開催された山とみどりの市民イベント「みどり生き生き みのお生き生き 体験フェア in せんちゅうパル」に出展し、取組の趣旨説明のパネル展示や苗木育成の参加受付を行いました。

2) 植樹活動

地域住民を対象とした植樹活動

5月9日(日)に9ボランティア団体の協力を得て、「オオクワガタの棲める森づくり」植樹祭を開催しました。

当日は天候にも恵まれ、一般の参加者、ボランティア団体、スタッフ等総勢260名の方々に参加していただき、家庭等で育てたクヌギ、コナラの苗木を持ってきてもらい、カミネッコンを使って約400本植樹しました。

開会式では、近畿中国森林管理局を代表して計画部長が挨拶し、植樹祭への協力に対するお礼などを述べ、続いて「箕面体験学習の森」整備事業()検討委員会を代表して、兵庫県立大学教授の服部 保氏から挨拶をしていただき、「本日の植樹祭は、箕面の在来樹種により、里山の再生と生物多様性の向上を目指す市民参加型の森づくり活動で、全国的に見ても画期的な取組であり、今後もこの取組に多くの方のご協力をお願いしたい」と述べられました。

その後、カミネッコン(再生段ボール植木鉢)の作製、苗木の移し替え、現地への植樹に熱心に取り組んでいたあつと、参加した子どもたちによる記念標柱の除幕式及び当局、検討委員会、明治の森箕面自然休養林管理運営協議会の代表4名による記念植樹(エドヒガン、ヤマザクラ、ウワミズザクラ、ムクロジロジ、ケヤキの苗木を各1本ずつ)を行いました。午後からは、「オオクワガタの棲める森づくり」のイメージソング「未来の森」を作詞作曲していただいた彩-aya-さんによるミニコンサートを開催し、爽やかな新緑と彩さんのピュアな声がマッチし、皆さんその歌声に聞き入っていました。

閉会後に、来年度に植樹するクヌギ、コナラの苗木育成をお願いし、41組の方から協力の申し込みがありました。





開会式で服部兵庫県立大学教授が挨拶



親子仲良くカミネッコ作り



作ったカミネッコに苗木を移し替え



大きくなあれと植えた苗木に水やり



子どもたちによる記念標柱の除幕式



彩さんによるミニコンサート



イメージキャラクター

カエデちゃん・櫟(くぬぎ)ちゃん・サクラちゃん

小学生を対象とした植樹活動

10月29日(金)に、萱野北小学校3年生70名と先生3名が参加し、ボランティア団体、京都大阪森林管理事務所の協力も得ながら、学校でドングリから育てたクヌギ・コナラ苗木の植樹行事を行いました。

当日は、カミネッコンの作製、苗木の移し替え、現地への植樹を順番に体験してもらい、植樹した150本の苗木が大きく育ち、20年後、30年後にクワガタなどが飛んでくるような森になることを祈り、メッセージを書いた看板や記念標柱を立てました。



萱野北小学校の植樹の様子

幼稚園児を対象とした植樹活動

平成23年3月4日(金)に箕面市立とどろみ幼稚園児48名及びなか幼稚園児49名に参加してもらい、カミネッコンを使って植樹体験を行いました。

とどろみ幼稚園は今年度末をもって廃園予定であるため、子どもたちにとって、2年間にわたり大切に育てた苗木を山に返してもらったことは意義深い体験になったと思います。

また、なか幼稚園は、思い出づくりの一助となるようボランティア団体の協力を得て、森林クイズなども行い、子どもたちに大変好評でした。

子どもたちとともに苗木も立派に生長することを祈りながら、植樹を終りました。



とどろみ幼稚園・なか幼稚園の植樹の様子

学生を対象とした植樹活動

5月29日(土)に京都教育大学社会領域専攻の新生等44名が参加し、森林環境教育セミナーの一環として、現地への植樹を体験してもらいました。今回は綺麗な花が咲くことを祈り、ヤマザクラとエドヒガンを45本植樹し、最後に記念標柱立てを行いました。

また、京都大学大学院生にも9月17日(金)に植樹を体験してもらいました。



京都教育大学学生による植樹の様子

ボランティアを対象とした植樹活動

5月9日(日)の「オオクワガタの棲める森づくり」植樹祭は、9ボランティア団体の協力も得て実施しました。

この9団体の皆さんには、「オオクワガタの棲める森づくり」の取組趣旨に賛同いただき、当日は植樹のみならず、参加者への植樹指導等のスタッフとしても応援していただきました。

また、箕面国有林で活動するNPO法人日本森林ボランティア協会にも、森林整備活動の一環として、民間企業の職員等を対象に3回の植樹を実施してもらいました。

3) その他の取組

昆虫ベッドへの放虫

カブトムシ・クワガタなどの昆虫が生育できる森林環境教育施設整備の一環として、10月29日(金)に実施した萱野北小学校植樹行事にあわせて、子どもたちに昨年度設置した昆虫ベッドにカブトムシの幼虫21匹を放虫してもらいました。

このカブトムシの幼虫は、今夏に箕面産の2匹と2匹を当ふれあいセンターで飼育し、産卵させたものです。

子どもたちの多くは放虫は初めての体験であり、昆虫ベッドの中に顔を入れて熱心に観察し、今年の夏には成虫となって羽ばたくことを期待していました。



防鹿柵及びテキサスゲートの設置

昨年に引き続きNPO法人日本森林ボランティア協会の協力を得て、ながたにの森付近に防鹿柵及びテキサスゲートの設置を行いました。

ボランティアの皆さんは、過去の経験から手際も良く、今までの反省点も考慮して柵の固定を工夫してもらい、立派なものが完成しました。

また、昨年度設置した防鹿柵及びテキサスゲートの補修も実施していただきました。



完成した防鹿柵及びテキサスゲート

植生調査

11月1日(月)に展望台周辺で植生調査を行いました。

検討委員会の委員でもある兵庫県立大学教授の服部 保氏及び地元の鎌谷計三氏の協力・指導のもと、植生調査を実施しました。

当調査はあらかじめ設定してあるプロットの植生状況を調査するもので、今後「オオクワガタの棲める森づくり」を取り組んでいくうえでの貴重なデータとして保存・活用していくこととしています。



植生調査の様子

おわりに

小学校や幼稚園から、「オオクワガタの棲める森づくり」への参加を通して、「自然の中の生命や、それを自分たちで守り育てなければという意識を子どもたちが持つきっかけになってほしい」、「ドングリはおもちゃとしてばかりでなく生きているという体験ができてよかった」といった感想が聞かれるなど、森林環境教育の一環として徐々に成果が出てきていると感じています。

今年度の取組としては、苗木育成に取り組んでもらっている方々を対象に植樹行事を始めました。

植樹後は、下刈や間伐等の保育作業を引き続き行い、十数年後からは順次台場クヌギに仕立てていく予定で、今後もボランティア団体や教育機関、地域住民の方々と連携を図りながら、箕面国有林を子どもたちの森林環境教育のフィールドとして長期にわたって有効に活用できる取組を続けて行こうと考えています。

大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策

趣旨

三重県と奈良県の県境に位置する大台ヶ原一帯では、昭和30年代に伊勢湾台風等大型の台風の影響により大量の亜高山性針葉樹林(トウヒ・ウラジロモミ等)が倒れたため、林内に多量の光が入り込み、急速にミヤコザザが増加し、ニホンジカの好適環境が出現したことによりニホンジカが増加し始めました。

現在、増えすぎたニホンジカとその他の複合的な要因により森林の衰退が進んでいます。

三重森林管理署管内の大杉谷国有林でも、高木の枯損やササ原化が進行するとともに、スギ、ヒノキの植栽地においては植栽木はもとより林床植生が消失し、一部で土砂流出や林地崩壊現象が見られます。

また、天然林においても高木層の消失により生物多様性が著しく損なわれるなど、国有林内に設定している「大杉谷森林生態系保護地域」も含めて森林生態系への影響が深刻化しています。

このため、ニホンジカによる森林被害の対策とニホンジカ保護管理計画を一体的に進めていく必要があることから、当ふれあいセンターと国有林を所管している三重森林管理署が、環境省、三重県、奈良県、関係町村、NPO等と連携して小規模防鹿柵、剥離防止ネット巻き等の実証試験を行うこととし、「大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針」(以下「被害対策指針」という。)を作成するとともに、ニホンジカによる森林被害地における森林の再生及び保全のためのモデル事業を実施することとしています。

事業内容

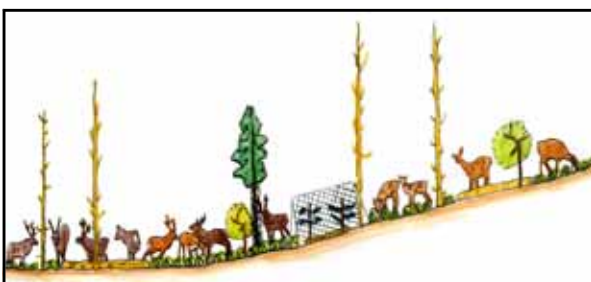
1 場所

三重県多気郡大台町 大杉谷国有林

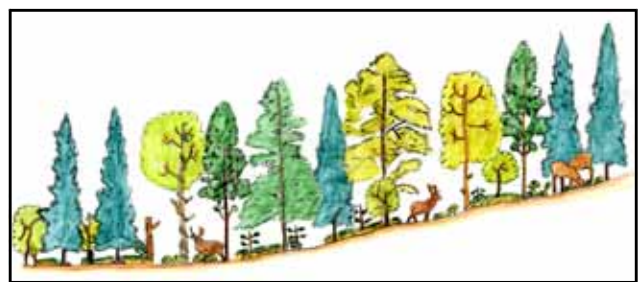
2 内容

「大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針検討ワーキングチーム」を設置し、以下の項目を総合的に検討して「被害対策指針」を作成する。

- (1) 「大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針検討ワーキングチーム」会合の開催
- (2) 共同試験地の調査及び維持
- (3) 森林の再生及び保全のためのモデル事業の実施
- (4) 普及啓発の実施
- (5) モニタリング調査

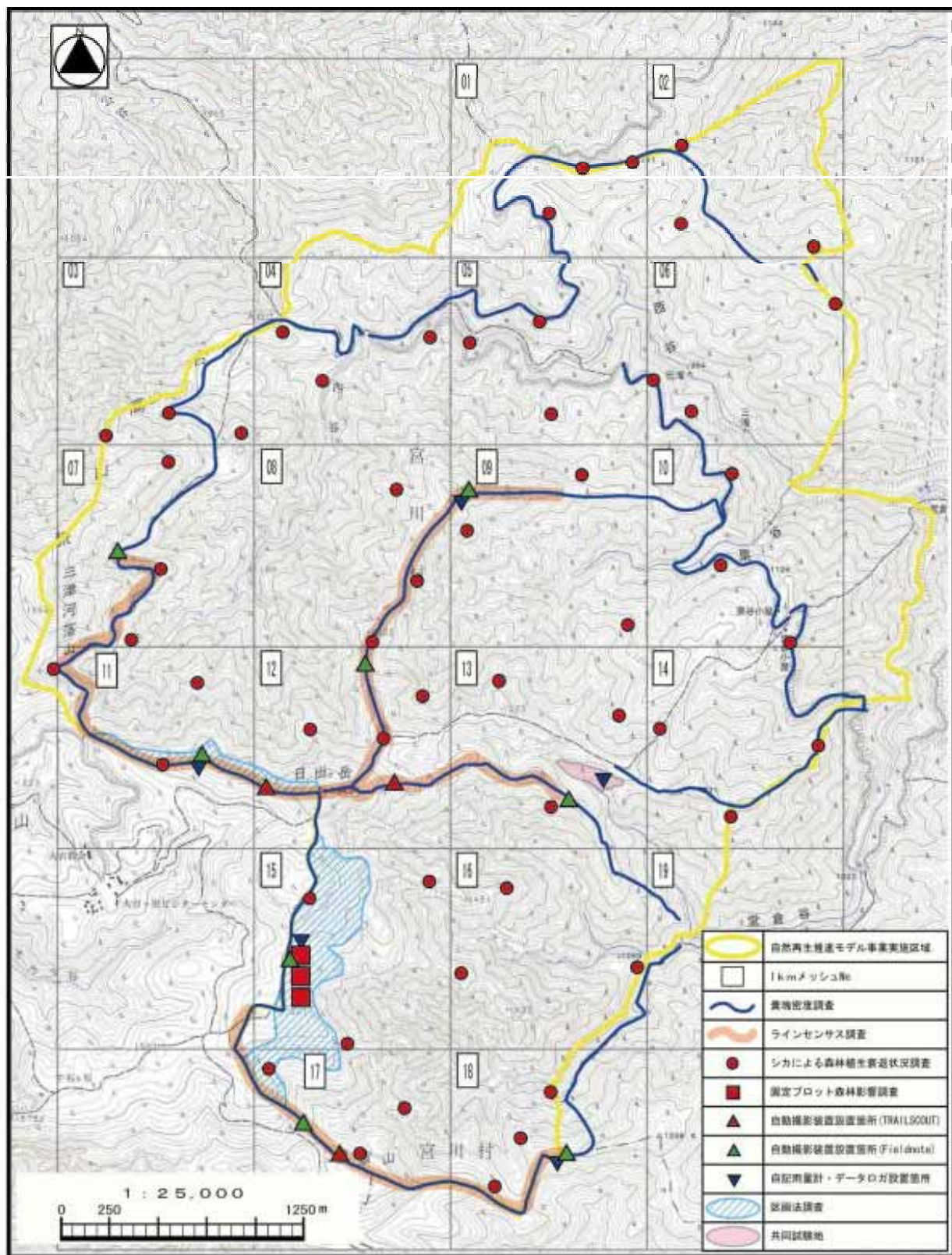


現在



将来

平成22年度大杉谷国有林におけるニホンジカの生息状況 及び森林被害の現況把握調査位置図



大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針 検討ワーキングチーム会合

ワーキングチーム委員（五十音順、敬称略）

【学識経験者委員】

氏 名	所属・職名
柴田 叡弼	名古屋大学大学院 名誉教授（座長）
高田 研一	NPO法人 森林再生支援センター 常務理事
高橋 裕史	(独)森林総合研究所関西支所 生物多様性研究グループ 主任研究員
日野 輝明	名城大学 農学部 生物環境科学科 環境動物学研究室 教授
福本 浩士	三重県 林業研究所 環境研究課 主任研究員
前迫 ゆり	大阪産業大学大学院 人間環境学研究科 教授

【地元関係者委員】

氏 名	所属・職名
内田 克宏	三重県猟友会 会長
森 正裕	NPO法人大杉谷自然学校 事務局長
山本 勝征	林業関係者[大台町議会議員、元校長]

【オブザーバー】

<p>三重県、奈良県、三重県大台町、三重県紀北町、奈良県上北山村、奈良県川上村 環境省近畿地方環境事務所 (独)森林総合研究所林木育種センター関西育種場</p>
--

【近畿中国森林管理局】

<p>近畿中国森林管理局 計画部長、企画官(自然再生担当)、森林施業調整官、指導普及課保護林係長、 国有林野管理課企画係長、森林整備課保護係長 三重森林管理署(署長、流域管理調整官) 奈良森林管理事務所(所長) 箕面森林環境保全ふれあいセンター<所長、自然再生指導官(自然再生担当、森林ボランティア担当)></p>
--

大杉谷国有林(三重県)におけるニホンジカによる森林被害対策 (第1回ワーキングチーム会合)

11月15日(月)及び16日(火)に三重県大台町の大杉谷国有林及び奈良県川上村で、大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針を検討するため、学識経験者、地元関係者、関係行政機関、国有林職員によるワーキングチームの第1回会合を開催しました。

1日目は、大杉谷国有林に上がり、正木ヶ原周辺の森林において設定している固定プロット森林影響調査箇所のパッチディフェンス(防鹿柵)を現地踏査し、柵の中の植生状況等を確認しました。

2日目は、川上村において会合を開催し、名古屋大学名誉教授の柴田勲氏に座長をお願いし、議事を進めていただき、三重署長、当ふれあいセンター及び調査委託先の担当から、平成22年度自然再生推進モデル事業 大台ヶ原地域(大杉谷国有林) 実施計画、平成22年度大杉谷国有林におけるニホンジカの生息状況及び森林被害の現況把握調査結果の中間報告、大台ヶ原に植栽するトウヒ苗木の仮植等について順次説明し、検討を行いました。

委員からは、モニタリング調査について、「ラインセンサス調査及び糞塊調査で得た結果について、過去2年間と比較し変化要因の分析を行うこと」、「センサーカメラ調査はフィルム当たり何頭と明記すること」、「カメラの設置向きによってデータに違いがあるので注意してほしい」、「森林植生衰退調査及び固定プロット調査について、3年間の生データから分析すること」などの意見等がありました。

頭数調整については、「現状での生息密度を把握して、来年度必要性の可否を検討することとしたい」と述べ、会合を終了しました。

平成22年度の調査概要

1. 糞塊密度調査
ニホンジカの生息密度を把握するための調査
2. ラインセンサス調査
ニホンジカの生息密度に関する季節変化等を把握するための調査
3. 区画法調査
生息密度を把握するための調査
4. ニホンジカによる森林植生衰退状況調査
事業区域を1kmメッシュで18区画設け、各区画内でランダムに3箇所調査
5. 固定プロット森林影響調査
(1) 正木ヶ原周辺に30m四方のプロットを3箇所設定し、立木及び稚幼樹を調査
(2) 生育している稚幼樹の内、半数は3m四方の防護柵で囲み、残りの半数は囲まずに比較



大杉谷国有林でパッチディフェンスを現地踏査



川上村で大杉谷WT第1回会合を開催

モニタリング調査結果報告の検討 (第2回ワーキングチーム会合)

3月2日(火)に三重県津市で、第2回ワーキングチーム会合を開催しました。

初めに、平成22年度大杉谷国有林におけるニホンジカの生息状況及び森林被害の現況把握調査結果の報告について受託業者から説明し、報告書の作成に向けて内容の検討を行いました。

委員からは、モニタリング調査の各項目について、「過去3年間のモニタリング調査内容を総括したものを報告書に盛り込むこと」、「各メッシュごとの特性を踏まえた報告とすること」、「センサーカメラに写っているツキノワグマなどの動物は、生物多様性等のアピールとして使用すること」などの意見等が出され、その意見の内容により報告書にも反映させて最終の取りまとめを行いました。



自動撮影装置による生息状況調査結果

ニホンジカ 2010.7.31 大杉谷国有林560林班



ニホンジカ 2010.10.1 大杉谷国有林558林班



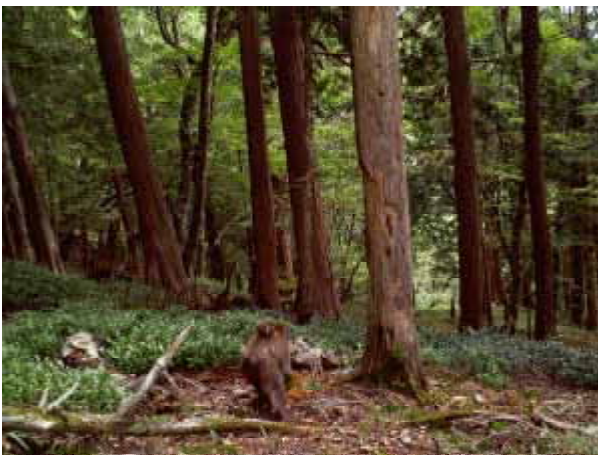
ツキノワグマ 2010.10.4 大杉谷国有林558林班



ツキノワグマ 2010.10.7大杉谷国有林561林班



ニホンザル 2010.9.5 大杉谷国有林561林班



アナグマ 2010.10.7 大杉谷国有林547林班



イノシシ 2010.8.15 大杉谷国有林561林班



キツネ 2010.8.13 大杉谷国有林547林班



テン 2010.8.21 大杉谷国有林547林班



ノウサギ 2010.10.16 大杉谷国有林549林班



ニホンリス 2010.8.7 大杉谷国有林547林班



ニホンカモシカ2010.8.10大杉谷国有林558林班



関係機関等との連携

年月日	内 容	主催者等	場 所
H22. 10.15	大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会 第1回森林生態系・ニホンジカ保護管理合同部 会への参画	環境省近畿地方環境 事務所	奈良県橿原市
H23. 2. 16	大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会 第2回森林生態系・ニホンジカ保護管理合同部 会への参画	環境省近畿地方環境 事務所	奈良県橿原市

推進体制

環境省 近畿地方環境事務所

大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会

森林生態系部会

植生保全対策WG(両部会合同)

ニホンジカ保護管理部会

- ・委員：有識者等
- ・関係機関：近畿中国森林管理局、奈良県、三重県、
上北山村、猟友会、森林組合

近畿中国森林管理局

大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針検討ワーキングチーム

- ・委員：学識経験者、地元関係者
- ・オブザーバー：環境省近畿地方環境事務所、三重県、奈良県、大台町、紀北町、
上北山村、川上村
(独)森林総合研究所関西育種場

奈良県

三重県

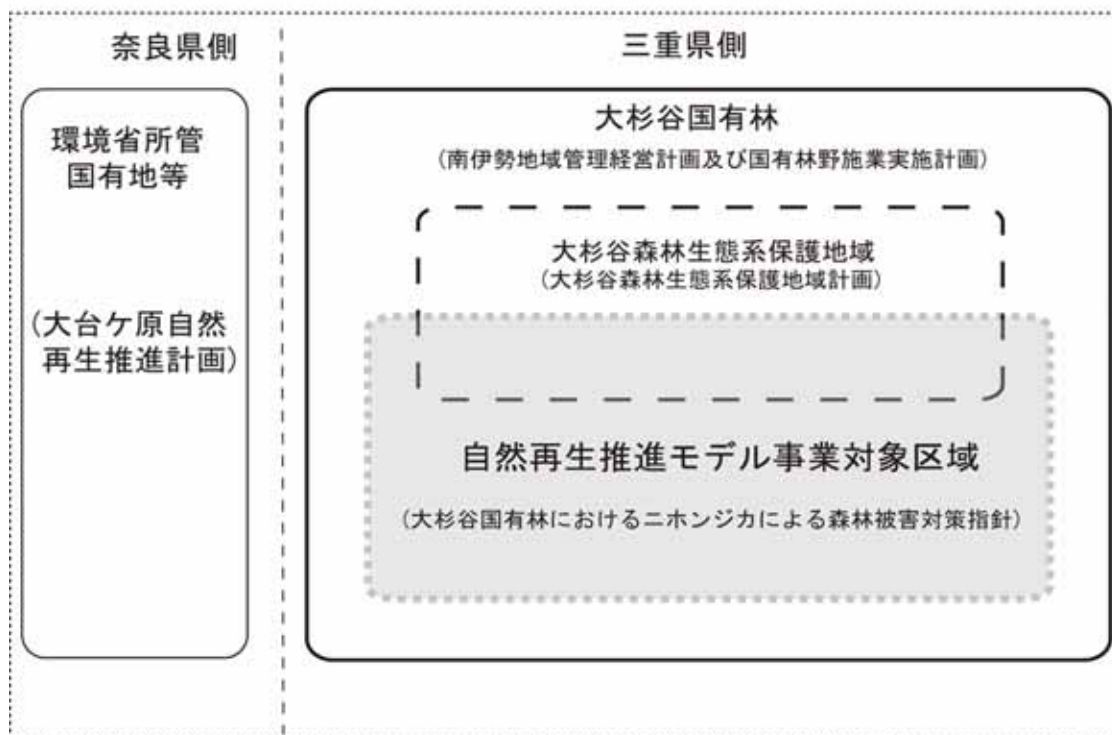
上北山村

川上村

大台町

紀北町

大杉谷国有林における「自然再生推進モデル事業」の対象区域



伊崎国有林の森林植生回復対策・カワウ対策支援

関係機関等との連携

年月日	内 容	主催者等	場 所
H22. 7. 21	第1回カワウ総合対策協議会への参画	滋賀県	滋賀県庁東館
H23. 1. 26	第2回カワウ総合対策協議会への参画	滋賀県	滋賀県大津合同庁舎

滋賀森林管理署への支援

年月日	内 容	場 所
H22. 7. 1	平成22年度伊崎国有林の取扱いに関する検討におけるワーキンググループ現地研修会	伊崎国有林(滋賀県近江八幡市)
H23. 3. 8	平成22年度伊崎国有林の取扱いに関する検討におけるワーキンググループ会合	滋賀森林管理署



伊崎国有林のカワウの営巣状況（白く見えるのはカワウの糞）

森林環境教育への支援

教員向けの森林環境教育手引書の作成

趣旨

今日、循環型社会の構築を進めるうえで、また、子どもたちの「生きる力」を育むうえで、森林のもつ様々な機能について体験活動を通じて学び、理解を深めることが広く求められています。

このため、当ふれあいセンターでは、平成17年度から19年度までの3年間で、発達段階に応じた「森林環境教育プログラム(子ども向け)」の作成に取り組みました。

また、平成21年度には、各道府県やボランティア団体、森林管理署等から収集した森林環境教育に関する様々な事例の中から、平成20年3月に改訂された小学校の学習指導要領に即し、34事例を選定・秀抜した「森林環境教育推奨事例集」を作成したところです。

こうした体験プログラムや事例集のようなものをより確実かつ広範に推進し、実働性を上げていくためには、学校教育のとりわけ小学校の学習指導要領等に示された各学年段階における各教科等の指導内容に対応した森林環境教育の指導計画を明確に示すことも必要と考えます。

このことから、教育関係者等の専門家からなる「森林環境教育手引書製作検討委員会」を設置し、小学校の低・中・高学年に対応した教員向けの「森林環境教育手引書」の作成に取り組みました。

実施内容

- (1)森林環境教育における指導内容の整理
- (2)森林環境教育手引書製作検討委員会の開催
- (3)教員向けの森林環境教育手引書の作成

森林環境教育手引書製作検討委員会

委員（五十音順、敬称略）

氏名	所属・職名
岡本 洋子	京都市立洛央小学校 教諭
立花 禎唯	高槻市立大冠小学校 教諭
波多野達二	京都教育大学附属京都小学校 非常勤講師、林業家
山下 宏文	京都教育大学 教授（座長）

第2回製作検討委員会の様子

森林環境教育手引書製作検討委員会の開催

第1回製作検討委員会：平成22年8月18日(水)

第2回製作検討委員会：平成23年1月17日(月)



当センター主催及び共催による活動

森林環境教育セミナー

森林環境教育セミナーは、学校教育における森林環境教育の導入を推進することを目的として、箕面市教育委員会との共催により、箕面市等の小・中学校の教員等を対象に京都大阪森林管理事務所等の協力を得て実施しており、今年度は教員を目指す大学生を対象としたセミナーにも取り組みました。

まず、5月29日(土)に大阪府箕面市の箕面国有林で京都教育大学教育学部社会領域専攻新入生等44名を対象に、また、8月19日(木)は同じく箕面国有林で箕面市・豊中市の小・中学校の先生等20名を対象にセミナーを開催しました。今年度は、実施メニューに当ふれあいセンターで作成した「森林環境教育推奨事例集」を活用した事例の実践を取り入れ体験していただきました。

教員を対象とした森林環境教育セミナーの取組状況(8月19日実施)

講義「森林環境教育の重要性と進め方」
(講師：山下宏文京都教育大学教授)



箕面国有林の概要説明(箕面森林官)



間伐・枝払い・玉切り作業の体験実習



「か-カード」と同じ色のものを探す(色あわせ)



木の枝から二酸化炭素濃度を測定



自然素材を使ったクラフト作り



参加した先生からは、間伐を体験して、「木を伐ることも森のためになることがわかった。子どもたちにも伝えたい」、「倒す向きを考えることが重要だとわかった」、また、推奨事例集を活用した実践については、「色あわせでは、普段見慣れた緑色が自然の中には意外とないものだった」、「自然のものを使って作るクラフトはとても楽しい」などの感想が聞かれ、今回のセミナーを通じ楽しく感じたことを、学校の授業で子どもたちにも伝えていただくことを期待しているところです。

夏休み親子木工教室

7月28日(水)・29日(木)の2日間、近畿農政局・京都大阪森林管理事務所・当ふれあいセンターの共催による「夏休み親子木工教室」を、京都農林水産総合庁舎内で開催しました。

この木工教室は小学生を対象として、木工を通じて木に親しんでいただくことを目的に平成13年から行っているもので、今年は京都市内に住む親子30組76名が参加しました。

子どもたちは、職員が準備した木の円盤やどんぐり、小枝などを利用して、思い思いに想像力を働かせ、創作を行いました。

今回は木の厚みや大きさの違う丸太や板も材料に加えられ、それらは子どもたちの手にかかる、「さかな」や「オオクワガタ」などに変わっていきました。



森林管理事務所への支援

箕面市内の小学生を対象とした森林教室

6月25日(金)に京都大阪森林管理事務所は、箕面市立萱野小学校で5年生3クラス91名と保護者37名を対象に森林教室を開催し、当ふれあいセンターは支援を行いました。

初めに、パワーポイントを使って「森林のはたらき」を説明したあと、木工作業にとりかかりました。

子どもたちは、丸太の輪切り・青竹・枝・どんぐりなどを使い、動物の顔の壁掛け・自動車・木琴など個性豊かな作品に仕上げていました。



養護学級の児童を対象とした森林教室

8月21日(土)に京都大阪森林管理事務所は、箕面市立障害者福祉センター「ささゆり園」で養護学級に在籍する児童と保護者あわせて100名を対象に森林教室を開催し、当ふれあいセンターは支援を行いました。

子どもたちは、木の輪切りや小さな板切れ等の材料を選んで保護者といっしょに作品づくりを行ったり、丸太切りに挑戦しました。

加工コーナーのスタッフは、木材の穴あけなど子どもたちの注文に大忙しでしたが、子どもたちの一生懸命の姿に喜びを感じました。



箕面市内の幼稚園児を対象とした森林教室

11月21日(日)に京都大阪森林管理事務所は、箕面市立とよかわみなみ幼稚園及びとどろみ幼稚園で開催された「製作展」に木工教室コーナーを出展し、当ふれあいセンターは支援を行いました。

両幼稚園とも、丸太の輪切りや木片・ドングリ・松ぼっくり・小枝などを使って自由に工作を行っていただきました。

それぞれに素敵な作品ができあがり、子どもたちは満足顔でした。



中学生の職場体験への支援

京都大阪森林管理事務所は、5月31日(月)から6月4日(金)にかけて京都市立京極中学校2年生5名を、また、9月6日(月)から9月10日(金)にかけて京都市立蜂ヶ岡中学校2年生5名を受け入れて職業体験を実施しました。

当ふれあいセンターでは、クヌギの苗木をポットに植え替える作業や木工品づくりなどを体験してもらった支援を行いました。



当センター主催及び共催による活動

年月日	対象者名	人数(名)	実施内容
H22. 5.29	教員を目指す大学生	44	植樹・間伐体験、推奨事例集を活用した事例の実践
H22. 7.28 29	京都市内の小学生と保護者等	76	パワーポイント「森林のはたらき」、木工クラフト
H22. 8.19	箕面市、豊中市の小・中学校等の教諭等	20	講義「森林環境教育の重要性と進め方」、間伐体験、推奨事例集を活用した事例の実践

森林管理事務所への支援

年月日	対象者等	人数(名)	実施内容
H22. 5.31	京都市内の中学生	5	苗木の植え替え、木工クラフト
H22. 6.25	箕面市内の小学生と保護者	128	木工クラフト
H22. 8.21	箕面市内の養護学級の児童と保護者	100	木工クラフト
H22. 9. 6	京都市内の中学生	5	苗木の植え替え、木工クラフト
H22.11.21	箕面市内の幼稚園児と保護者	400	木工クラフト

森林ボランティア活動への支援

森林ボランティアリーダー養成スクールフォローアップ事業

趣旨

国民の3人に2人はボランティア運動への参加意欲をもっているなど、国民の社会参加意識の高まりに加え、ボランティア活動への理解と環境問題への関心が高まり、近年、多様な主体による森林づくり活動が活発化しています。

これまで近畿中国森林管理局においては、これらの森林ボランティアへの支援活動として、各森林ボランティア団体のリーダーとなるべき人材の育成を目的に、平成12年度から「森林ボランティアリーダー養成スクール」を実施し、基礎的な安全管理に関する知識・技術に加え、植生、土壌、育林、森林計画、林産、木材利用など森林・林業の基礎分野の講義・実習等を行い、延べ150余名のリーダーを養成してきました。

当センターでは、これまで実施してきた養成スクールの修了生へのアンケート調査や意見交換会を行い、これまでの養成スクールの実施内容等を検証し、今後、各森林管理署や各ボランティア団体等における実施の参考となるような体系的なモデルカリキュラムを作成するものです。

実施内容

- (1) 各ボランティア団体のカリキュラムの有無の調査
- (2) 各森林ボランティア団体のカリキュラムの内容調査及び共通項目の抽出
- (3) 技術指導集の収集

グループ対抗 里山デジカメ選手権

も り

テーマ:身近な森林の再発見!!

里山と呼ばれる農村や街の周辺にある身近な森林は、近年における林業の低迷やエネルギーの石油依存などを背景として、手入れがなされずに荒廃が進んでいます。

当ふれあいセンターでは、このような里山などの保全・再生を重要な活動の一つとしています。

平成19年度から実施している「グループ対抗里山デジカメ選手権」は、今日急速に普及したデジタルカメラを用いて、里山などの動植物の姿や保全、再生活動の一瞬を切り撮った3枚の組写真を募集し、優れた作品を顕彰することを通じて、里山の現状や役割を多くの人に伝えることを目的とし、今年で4回目となります。

今年度も「身近な森林の再発見!!」をテーマとして、募集したところ、東は東京都から南は沖縄県まで14都府県から、学校、森林ボランティア団体、企業・家族など多彩なグループによる87組261枚の作品を寄せていただきました。

これらの作品については、第一次審査により30組90枚が選定され、その後最終審査が行われました。

最終審査会は、11月13日(土)に滋賀県立琵琶湖博物館で、写真家の今森光彦氏と農学博士の只木良也氏及びフリーアナウンサーの青山佳世氏を審査員にお迎えし、公開による作品の展示とグループ代表による日頃の活動や作品の説明、里山への思いのスピーチをしていただきました。その結果、最優秀賞(林野庁長官賞)1組、琵琶湖博物館長賞1組、優秀賞(近畿中国森林管理局長賞)7組に、今年度は審査員特別賞1組を設け計10組を決定しました。

また、今回は滋賀県内を中心に活動しているボランティア団体の活動を通して里山や森林の現状を探るミニシンポジウムを開催しました。

グループ対抗里山デジカメ選手権入選作品展示

入選作品については、京都市内(近畿農政局「消費者の部屋」、京都中央郵便局「展示ギャラリー」)において展示を行いました。

平成22年度入選作品展示

近畿農政局

京都中央郵便局

近畿農政局(京都市上京区)

平成23年1月 4日 ~ 28日

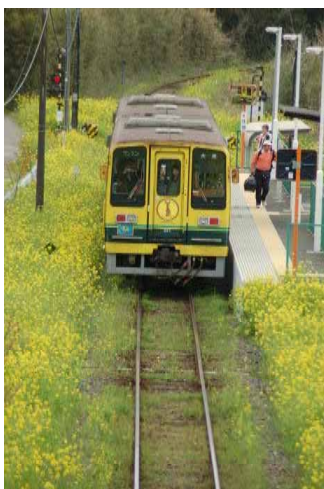
京都中央郵便局(京都市下京区)

平成23年2月14日 ~ 28日



平成22年度 グループ対抗 里山デジカメ選手権

最優秀賞（林野庁長官賞）
タイトル「里山物語」



入選した作品が毎日新聞京都版に掲載されました。



詳細については、当センター発行の
「平成22年度グループ対抗里山デジカ
メ選手権入選作品集」をご覧ください。

箕面森林環境保全ふれあいセンター運営推進懇談会

趣旨

森林環境保全ふれあいセンターは、国有林野を活用し、地域住民、NPO等が行う自然再生活動、生物多様性の保全等や森林の有する多面的機能の発揮についての理解を深めるために、教育関係者等が行う森林環境教育等に対して技術的指導その他支援等の取組を行う拠点として設置されました。

当ふれあいセンターでは、森林づくり活動や自然再生活動を行っているNPO及び森林環境教育を推進している教育関係者等の要望を的確に反映した取組等を行うため、当センターの運営に関して、学識経験者、森林ボランティア活動を行っている者及びマスコミ関係者をメンバーとする懇談会を設置し、懇談会等からの意見及び要望等を反映させた対話型の取組、ふれあいセンターの効率的な運営を推進することとしています。

テーマ

- ボランティアによる森林整備活動に関すること
- 自然再生に関すること
- 森林環境教育支援活動に関すること
- 情報の受発信に関すること

懇談会委員（五十音順、敬称略）

- ・ 金井久美子（NPO法人地球緑化センター事務局次長）
- ・ 北出 昭（毎日新聞社京都支局長）
- ・ 山下 宏文（京都教育大学教授）

平成22年度第1回懇談会

6月28日(月)に京都市内で、当ふれあいセンターの効率的な運営を推進するため、今年度第1回目の運営推進懇談会を開催しました。

会議では当ふれあいセンターの今年度の活動状況について、各担当指導官から説明を行いました。委員の方々からは、教員を目指す大学生を対象とした森林環境教育セミナーについて、「教員になる前にセミナーで体験しておくことが、教師になった時に非常に結びついていくと思いました。今後も取組をしていただくとありがたいです」、グループ対抗里山デジカメ選手権について、「入選結果につい

ては、次の年のことを考えたら、入選しましたよという案内を地域のマスコミに発表してはどうですか」、森林環境教育推奨事例集について、「教育新聞で紹介してもらって、希望者は連絡するともられますよというふうにしてはどうですか」などの意見等がありました。

当方から、「本日いただいた意見等については、今後の当ふれあいセンターの活動に活かしていきたい」と述べ、懇談会を終了しました。



第1回懇談会での委員との意見交換

平成22年度第2回懇談会

3月3日(木)に京都市内で、第2回運営推進懇談会を開催しました。

当ふれあいセンターから、平成22年度活動実績について説明した後、意見交換を行いました。

委員からは、「オオクワガタの棲める森づくり」にかかる野生動物の被害について、「子どもたちに現実を見せて考えさせるのも教育」、「地域住民に広く知らせいくことも大事」、「野生動物とどう共生していくかは森林を守るうえで大きな課題」などの意見等がありました。

これらの意見等は検討し、今後の取組に活かしていきたいと考えています。

各種活動

年月日	内 容	相手方・協力者等	場 所
H22. 4. 4	山とみどりの市民イベント「みどり生き生き みのお生き生き 体験フェアinせんちゅうパル」への参加（オオクワガタの棲(す)める森づくり）	実行委員会・箕面市ほか	豊中市
H22. 4. 15	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会第9回例会への出席	森林ボランティア団体・大阪府・箕面市ほか	箕面市
H22. 5. 20	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会第10回例会への出席	森林ボランティア団体・大阪府・箕面市ほか	箕面市
H22. 6. 4	森づくりフォーラム「市民と企業、これからの森づくり」への出席	(社)兵庫県緑化推進協会	神戸市
H22. 6. 4	土砂災害防止月間フォーラム「六甲山の緑について考える」への出席	国土交通省	神戸市
H22. 7. 13	明治の森箕面国定公園保護管理運営協議会第1回幹事会への出席	大阪府・箕面市	箕面市
H22. 7. 15	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会第11回例会への出席	森林ボランティア団体・大阪府・箕面市ほか	箕面市
H22. 7. 23	第1回箕面山ニホンザル保護管理委員会への出席	学識経験者・大阪府・箕面市ほか	箕面市
H22. 8. 6	明治の森箕面国定公園保護管理運営協議会総会への出席	大阪府・箕面市ほか	箕面市
H22. 8. 25	大阪府内国有林野等所在市町村長協議会への出席	大阪府・国有林野等所在市町村	大阪市
H22. 8. 26	森林環境教育研修現場実習の実施		箕面国有林
H22. 9. 16	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会第12回例会への出席	森林ボランティア団体・大阪府・箕面市ほか	箕面市
H22. 10. 21	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会第13回例会への出席	森林ボランティア団体・大阪府・箕面市ほか	箕面市
H22. 10. 24	山とみどりの市民イベント「みどり生き生き みのお生き生き 体験フェアinかやの広場」への参加（オオクワガタの棲(す)める森づくり）	実行委員会・箕面市ほか	箕面市

年月日	内 容	相手方・協力者等	場 所
H22. 11. 11	森林・林業交流研究発表会への参加「発表課題：森林環境教育の推進に向けての取組について」		森林管理局
H22. 12. 1	希少種データベース説明会への出席		森林管理局
H22. 12. 16	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会第14回例会への出席	森林ボランティア団体・大阪府・箕面市ほか	箕面市
H23. 2. 8 ・22	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会による防鹿ネット張りへの支援	森林ボランティア団体	箕面国有林
H23. 2. 10	明治の森箕面国定公園保護管理運営協議会第2回幹事会への出席	大阪府・箕面市	箕面市
H23. 2. 14 ～18	野生生物保護・管理研修の受講		森林技術総合研修所
H23. 2. 17	明治の森箕面自然休養林管理運営協議会第15回例会への出席	森林ボランティア団体・大阪府・箕面市ほか	箕面市
H23. 2. 27	シンポジウム「ツキノワグマの大量出没の要因と対策を考える」への出席	兵庫県森林動物研究センター	神戸市
H23. 3. 6	京都森林インストラクター会総会への出席	京都森林インストラクター会	京都市

主な活動

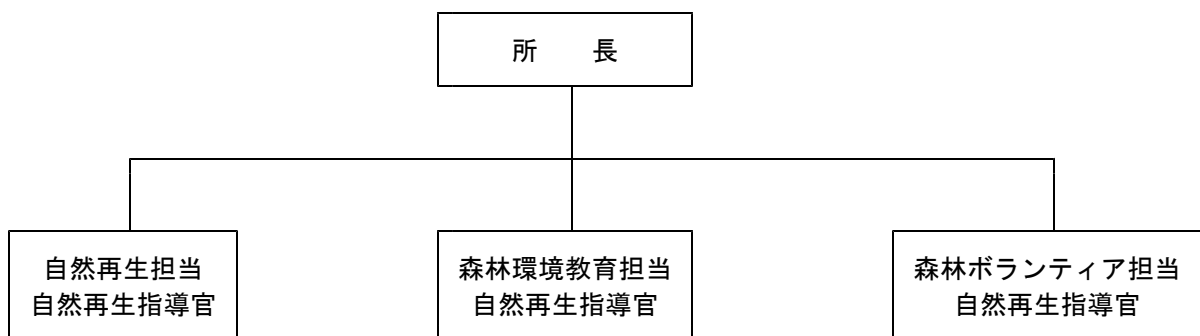
主な活動としては、自然再生への取組、森林ボランティア活動や森林環境教育活動への支援などです。

活動フィールド

大阪府と京都市にある国有林が主な活動フィールドです。

なお、近畿中国森林管理局管内全域において、ニーズ把握を行い、必要に応じてそれらのニーズを踏まえた活動を展開しています。

役割分担



センターへの行き方



J R大阪環状線「桜ノ宮駅」下車、西出口から徒歩約5分

平成23年3月

林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター

〒530-0042 大阪府大阪市北区天満橋一丁目8番75号

近畿中国森林管理局内

電話：06-6881-2013 F A X：06-6881-2055

ホームページ http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/

※平成23年4月より上記住所に移転いたします